

栃木県家畜改良増殖計画の概要

R3年3月

【策定の趣旨】

家畜改良増殖計画については、家畜改良増殖法第3条の2第1項の規定により国が策定する家畜改良増殖目標に即して、同法第3条の3第1項の規定により県計画を定めることができることとされている。

平成2年3月、令和12年度を目標とする国の家畜改良増殖目標が公表されたことから、県においても、長期的な展望に立った家畜(乳用牛、肉用牛及び豚)の改良増殖指針として令和12年度を目標とする「栃木県家畜改良増殖計画」を策定し、本県の畜産の振興を図る。

【乳用牛】

1) 基本的な考え方

- ・ゲノミック評価等を活用した乳用牛の改良・増殖、及びその遺伝的能力の効率的な向上
- ・搾乳ロボット等に適合性の高い後継牛の確保

2) 改良目標

○乳用雌牛の能力に関する目標値(ホルスタイン種)

	乳量(kg)	乳成分(%)		
		乳脂肪	無脂乳固形分	乳蛋白質
現在	8,840	3.86	8.75	3.26
目標	10,000	3.86	8.75	3.26

4) 増殖目標

生乳生産量の拡大、経産牛1頭あたりの泌乳能力向上を考慮して設定

総飼養頭数 55,290頭(現在 51,900頭)

3) 能力向上に資する取組

- ・遺伝的能力の高い国産種雄牛等の活用
- ・性判別技術の活用による効率的な後継牛確保
- ・ゲノミック評価のデータ集積から効率的な改良及び新たな改良形質(疾病、暑熱等)の検討
- ・牛群検定、代謝プロファイル等を活用した飼養管理技術の改善
- ・ICTや超音波検査等を活用した繁殖管理技術の普及定着

【肉用牛】

1) 基本的な考え方

- ・ゲノミック評価等を活用し、産肉能力のみならず繁殖性や体型の良い繁殖雌牛の効率的な改良
- ・多様な消費者ニーズへの対応を図るための科学的知見の蓄積と新たな生産技術の開発

2) 改良目標

○繁殖雌牛の産肉能力に関する育種価向上値の目標数値

品 種	枝肉重量(kg)		脂肪交雑(BMS No.)
	現在	目標	
黒毛和種	現在	0	0
	目標	+10.0	+0.20

○繁殖能力に関する目標数値

品 種	初産月齢(か月)	分娩間隔(か月)	子牛生産指数※
	現在	25.7	13.6
目標	23.5	12.5	2.96

※4歳を超えて迎えた分娩までに出生した頭数を、4歳時点に換算した値

4) 増殖目標

繁殖雌牛の増頭及び肉用子牛の生産拡大を考慮して設定

総飼養頭数 87,800頭(現在 75,800頭)

3) 能力向上に資する取組

- ・遺伝的能力評価を活用した繁殖雌牛の改良
- ・ゲノミック評価を活用した効率的な改良
- ・受精卵移植技術の活用による効率的な繁殖雌牛群の確保
- ・産肉能力や繁殖性等の改良関連データの情報収集及び飼養管理の改善
- ・代謝プロファイルテスト等を活用した繁殖・飼養管理の改善
- ・繁殖・肥育一貫経営の推進
- ・多様な消費者ニーズや輸出拡大に向けた生産

【豚】

1) 基本的な考え方

- ・優良種豚の導入等による肥育素豚生産用母豚の改良
- ・ロース芯への脂肪交雑の向上や飼料用米を活用した特徴ある豚肉生産等による消費者ニーズへの対応

2) 改良目標

○肥育素豚生産用母豚の能力に関する目標数値

	1腹当たりの生産頭数(頭)	育成率(%)	年間分娩回数(回)	1母豚当たりの年間離乳頭数(頭)
現在	11.2	89	2.3	22.7
目標	13.1	94	2.3	25.8

○肥育豚の能力に関する目標値

	出荷日齢(日)	出荷体重(kg)	飼料要求率
現在	188	115	2.9
目標	170	119	2.8

4) 増殖目標

飼養頭数の規模拡大及び繁殖成績向上を考慮して設定

総飼養頭数 491,550頭(現在 403,400頭)

3) 能力向上に資する取組

- ・遺伝的能力評価に基づく種豚の選抜・利用
- ・人工授精技術の向上
- ・飼料用米等利用による特徴ある豚肉生産及び生産コストの低減
- ・ストレス負荷の軽減等快適性に配慮した飼養管理技術の周知及び普及
- ・飼養衛生管理基準の遵守と徹底

5) その他

- ・ビックデータの活用等による生産性向上や疾病対策の推進
- ・臭気対策等の環境対策を推進